

第93号  
令和5年5月23日  
高二 柴田 武則  
山下 哲平  
笠谷 佳吾  
高一 一法師 護

# 読書三昧

甲南中学・高校  
図書館  
図書委員会  
芦屋市山手町  
31番3号

2022年度

## 灘甲戦読書会

六月十二日、甲南中高図書館にて灘中高との灘甲戦読書会を行った。読書会では課題本を事前に読み、本についての感想を言ったり、それぞれの場面背景を考察したり、登場人物の心情を考察したりなどをする。今年度は甲南生七名、灘校生九名が参加した。今回の課題本は、灘校生が選んだ『夜行』という本である。

灘校生たちが積極的に発言してくれたのでなんとか回ったが、甲南生はあまり積極的ではなかった。今回で、どのようなことを話せばいいのかなどが、わかったのいい

勉強になったのではないかな。今回は、文章を読み取ってそのパートずつの情景描写や絵を想像し、話した。以下はそのまとめである。



第一夜「尾道」  
・窓から列車に飛び降りたのは主人公の妻であり、この作に出てくる顔のない女性である。  
・第一夜「奥飛騨」  
・ドライブウェイは黒々とした山の谷間に伸びている。  
・白い服を着た女性がこつちを見ながら右手を

上げてこちらを読んでいく。  
・黒々としたドライブウェイ・女性・トンネルがリンクしている。

第三夜「津軽」  
・顔のない女性が身を二階から降り出している。  
・白の濃淡で描かれた三角屋根の家。  
・永遠に続く黒  
・徐々に岸田さんの絵と共に旅をしているのではないかな。

第四夜「天竜の川」  
・顔のない女性が右手を上げて立っている。  
・白い砂利と夜桜  
・他にはある「気味悪い」と言う表現がない

全夜の共通点  
・長谷川さんがいない  
最終夜「鞍馬」  
・尾道にいた女性がい

後半戦  
・顔のない女性のっぺらぼうな女性が呼びか

けるように右手を上げていく。しかも読み手の方向に向いている。

読書会の後に、普段どんな本やどんな作者の本を読むのかについて話した。また読書会の課題本選びに関しての話をした。向こうは読みやすく話しやすいものを提案してくれていたようだが、こちらが難しいのを選んだみたいだった。

甲南生側は灘校生側に圧倒される形ではあったものの、楽しく会話できたので楽しかった。(高一 一法師 護)



『夜行』  
森見 登美彦 著  
(y/もり)  
出版社：小学館



## 店頭選書

八月二五日に、ジュンク堂書店三宮店にて、店頭選書を行いました。今回は二名の参加で、冊数は二冊を選書しました。好きな本を選んでいいと事前に聞いていたのであらかじめ何冊か決めていました。

当日、ジュンク堂に行き、数時間本を探しました。時間は結構あったので、決めていた本以外もゆつくり探すことができました。

選んだ本は選考があると思っていたのですが、その場ですべて購入していただき驚きました。(中二 鹿子 貴之)



2023年度

# 他校図書委員との交流

## 兵私SLA 第四六回生徒図書委員研修会

十一月十二日に雲雀丘学園中高で行われた図書委員会の交流会に参加してきました。参加校は雲雀丘学園、賢明女子学院、親和女子、六甲学院、関西学院、神戸龍谷、小林聖心、神戸山手女子、滝川、灘、三田学院そして甲南の計十二校でした。交流会では、各校の図書委員会（図書部）活動のプレゼンをしたり、手持ちの本を使ったゲームを行いました。甲南からは四名が参加しました。

私は、図書委員会に入っ  
て間もなかったので、図  
書交流会とはなんだろ？  
と思っていました。会  
場の雰囲気がよく、楽し  
かったです。

活動内容のプレゼンで  
は、文化祭での古本屋、  
POPづくりや店頭選書、  
オリジナルマスケットも  
いたりして、それぞれの  
学校の図書委員活動に特  
色があり、とても  
感心しました。



プレゼンの後に、  
各校が再び集まり  
「みんなで本を持  
ちよって」という  
各自が持参した本  
を使うゲームをし  
ました。ルールは、  
各グループの親以  
外のプレイヤーに  
お題が出され、制  
限時内に本の中  
からお題に沿った  
一文を探します。



最初に一文を見つけた人  
は、「みつけ」と言い、  
そこから一分の制限時間  
でお題の一文を探します。  
もし、お題に沿う言葉が  
見つからなかったら、そ  
の時、目についた言葉を  
言わなくてはなりません。  
一人ずつ見つけた一文を  
言っていき、親が一番良  
かった一文を言った人に  
ポイントを与えます。グ  
ループで順番に親になり、  
一番ポイントが多い人が  
勝ちというルールです。  
最初は、ルールがよく  
分からなかったのですが、  
やってみると意外と簡単  
で楽しめました。私は一  
回だけ勝てたのを嬉しく  
思いました。甲南の図書  
委員長は、各グループの  
勝者が競う決勝戦まで残っ  
ていました。  
また、交流会中であっ

た休憩時間に雲雀丘学園  
の図書館を見学しました。  
階ごとに小学生、中学生、  
高校生とそれぞれの学年  
に向けた本が置かれてい  
て使いやすいと思いまし  
た。

私は雲雀丘の交流会に  
参加し、他校の図書館委  
員会の人と交流もでき、  
楽しい時間も過ごせてよ  
かったです。この交流会  
を通して、もっと在校生  
に図書館の魅力を知って  
もらいたいと思いました。  
(中二 森脇 祐樹)



『みんなで本をもちよって』  
販売者：ケンビル

## 六甲交流会

十二月二日に灘中高  
図書館であった六甲主催  
の図書委員交流会に参加  
しました。参加校は神戸龍谷  
甲南女子、六甲学院とし  
て灘の計五校で、甲南か  
らは中学生五名、高校生四  
人の計九人が参加した。  
各校の自己紹介や活動  
内容の発表をはじめに行



い、その後読書会を行っ  
た。課題本は『舟を編む』  
(著者三浦しをん、灘校  
生が選んだもので、一  
章ごとにグループに分か  
れて話し合った。話し合  
いの中で登場人物の心情  
や場面の情景をそれぞれ  
が考えて発表した。『舟  
を編む』は辞書編集部が  
舞台の話なのだが、作中  
に辞書の紙質の話があり、  
辞書を実際に触ってみた。  
各辞書の質感や触りこ  
ちに違いがあり、本をた  
だ読むという以外の視点  
で書物に触れ合う良い機  
会になったと思う。この  
本の作者三浦しをんさん  
は国語の試験問題でも出  
されるほどの有名な方だ。  
甲南の図書館にも置いて  
あるので、是非一度手に  
とって見てもらいたいと  
思う。

読書会後に『みんなで  
本をもちよって』という  
ゲームを行った。このゲー  
ムは、自分で持参した本  
の中から、出されたお  
題に沿った文章を見つけ  
るというものだ。お題は  
「メルカリに出品された  
意外なものとは」「アイ  
ドルが告知ポスターに書  
いた機になる一言とは」  
などがあつた。私は新書  
を持参していたため、お  
題に沿った文章を見つけ、  
更にそこから面白い文章  
を見つけ出すのは難しかっ  
た。このゲームを甲南で  
もやってみたいと思う。  
このように、交流会で  
得たものを吸収し、甲南  
でも自分たちなりの図書  
委員活動を行っていきたく  
いと思つた。  
(高一 山下 哲平)



『舟を編む』  
三浦しをん 著  
(Y/みう)  
出版社：光文社

# 三田学院図書館

一月二二日の三田中学・高等学校の図書委員と交流会をしました。合流場所では三田市立図書館だったので、僕はなぜだろうと思っていました。活動内容の一部を紹介していただくためでした。その活動内容は市立図書館の一部のコーナーを使ってポップと共に おすすめの本を紹介

介するといふものです。図書委員が紹介した市立図書館で展示されている、ほとんどの本が誰かの手に渡っており、彼らの活動がしつかり認知されているなど感じました。市立図書館の他の部分も見学させてもらった後に三田学園の図書館に向かいました。

は古い本が多かったです。到着してすぐに他の図書委員の方々に迎えてもらい、案内や紹介をしていただきました。甲南の図書館では司書の方々が本紹介をするのがほとんどですが、三田学園では本の紹介は図書委員を中心として動いているようでした。甲南でも少しずつ図書委員が本の紹介をしていくたらしめました。その紹介の中で自分でできそうだなと感じたのはPOP作りです。



自分のおすすめの本を紹介できるといふのは面白そうであり、今一番できる可能性があるので。今年は頑張りたいと思います。

(高一 重田清貴)

\*\*\*

今回三田学園の方々と交流を行い、たくさん学びや気づきがありました。例えば活動内容についてです。僕は図書委員としてあまりまだ活動ができていないけ



れど三田学園の方々は市立図書館で活動していたり学校でもたくさん活動していました。その中でも特にすごいと思ったのが本の内容を絵などで交えながら、一枚の紙にジャンルごとに分けて紹介するといふものです。さらに驚いたのがその数です。太いファイル丸々埋まっていてそれが何冊もありました。余程長い期間継続してやっていたとできないことだと思えました。これからもこの甲南の図書館をより良くするために他学校との交流からいろんなものを吸収し、役立てていきたいです。

(高一 笠谷佳音)

## 図書委員会議

二〇二三年十一月 図書委員会議で図書委員会での活動内容を考えました。以下が候補としてあがりしました。

### 【校内活動】

- カウンター当番や学年文庫の管理。
- 図書館書架整理
- 読書三昧などの図書委員広報誌の編集
- 文化祭などで古本市を開催やその他イベント開催。
- POP作成や本の帯を活用した本紹介。

### 【校外活動】

- 店頭選書
  - 他校での交流会
- 今後これらを軸にして、図書委員活動を行っていきたいと思います！



## 古本市に向けて本の提供のおねがい

一〇二三年度の文化祭では、古本市を行います。古本市とは、御家庭で不要となった書物を図書館へ持ち寄っていただき、販売するものです。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で、古本市の開催も困難な状況でしたが、今年は、通常通りの文化祭に戻するため開催する予定です。詳しい案内は、後日保護者・生徒に向けて配信いたします。不要となった書籍や漫画等がございましたら、提供をして下さいますよう、よろしくお願い致します。収益につきましては、図書館や本に関する機関への寄付や学年文庫に充てる等有効的な活用方法を考えています。ご協力頂きますようお願い申し上げます。



# 図書委員おすすめ本紹介

## 『余命一年の君が僕に残してくれたもの』

著者：日野 祐希

(y/hの)

出版社：スターツ出版

あらすじ



母の死をきっかけに幸せを遠ざけ、希望を見失ってしまった瑞樹。そんなある日、季節外れの転校生・美咲がやってくる。余命わずかな美咲から「私が死ぬまでにやりたいことに付き合ってほしい」と言われた瑞樹は美咲のために奔走する。しかし彼女には他に隠している秘密があった。人見知りな瑞樹と天真爛漫な美咲の純愛物語。

感想



前までどうせ死ぬなら苦しまず楽に自殺したほうが良いと思っていましたが、それは大きな間違いだとこの本を読んで思いました。もし少しでも自殺などを考える人がいるならば絶対にこの本を勧めたいです。作中で僕が好きな文があるので紹介します。「死は、ゆっくり寄り添るものではなく、前触れもなく起こる天災のようなもの。そして、大切なものを根こそぎ奪っていく。けれど、奪われたあとには何も残らないのではなく、その人が撒いてきた思いという名の種が、残された者の中に芽吹いている。」これを讀んだ時はこの言葉の重みに驚きました。他にもこのような心に響く文がありますのでぜひ読んでみてください。

## 『氷菓』

著者：米澤 穂信

(y/yね)

出版社：KADOKAWA



あらすじ

神山高校に通う高校生、主人公の折木奉太郎は姉の頼みで廃部寸前だった古典部に入部することに。そこに千反田えりと福部里志と伊原摩耶花も入部する。奉太郎は「やらなくてもいいことならやらない。やらなければいけないことは手短かに」をモットーにしているが、えるの「私、気になります。」の一言で奉太郎たちは数々の謎に巻き込まれていく。

人が死なないミステリーでそういった話が苦手な人でも読みやすくアニメ化や実写化もしている作品。

(高一 笠谷 佳吾)

## ごあいさつ

図書委員長務めて

おります、高二D組柴田武則です。今でこそ私は図書委員長という立場ですが、実は中学生の頃は図書館をあまり利用していませんでした。私が図書館を訪れた際、その目的は専ら調べ物でした。また、私がが学校生活に導入されるようになったこともあいまって「本を讀まずともインターネットで間合うではないか」と思っていました。しかしある時、インターネットで調べても分からない経験をしました。そして半ば諦めの気持ちで訪れた図書館で適切な本に出会い、明瞭な回答と納得を得ることができました。

二次元の紙面上で物が整理されている為位置情報として内容を把握しやすい点や情報の信憑性が高いという点で、本の魅力を感じ、以降よ

く図書館を訪れるようになりましした。甲南の図書館は、

十萬冊という学校図書館で有数の蔵書数を誇っています。また自分で探したいものが見当たらないという時も、司書さんが丁寧に対応して下さいます。しかしながら、現状甲南生の図書館利用率はとても低い状態にあります。私は、せっかく素晴らしい環境が与えられているのだから、是非もつと沢山の人が図書館の魅力を知り、有効活用して欲しいと思います。

まずは「本にしかない魅力」「本を通して物事の深淵に触れることの楽しさ」を伝えられるよう、尽力してまいります。よろしくお願ひします。  
\* \* \* \* \*  
この度図書委員会副委員長になりました。高専一年A組の山下哲平と申します。私は「本に触りたい」という理由で、図書

委員に入りました。私は文章を讀み・書きすることに苦手意識を持っていました。しかし、これから文章を讀み・書きする能力は小論文や入試などで必要とされるため、その能力を伸ばす必要があると考えました。そこで私は「本に触れる」ことに着目しました。本は文章を扱う量が多いため、読む能力を上げる練習になると考えました。また、新しい単語や表現に触れることができ、それによって語彙力が向上し、書く能力が向上すると考えたからです。このように本には讀み・書きする能力を向上する最適なものだと考えました。

「本に触れる」として文章能力の向上につながると考えています。「本に触れる」ことの良さを皆様知ってもらいために努めて参りますので、これからどうぞよろしくお願ひいたします。

(高二 重田 清貴)